

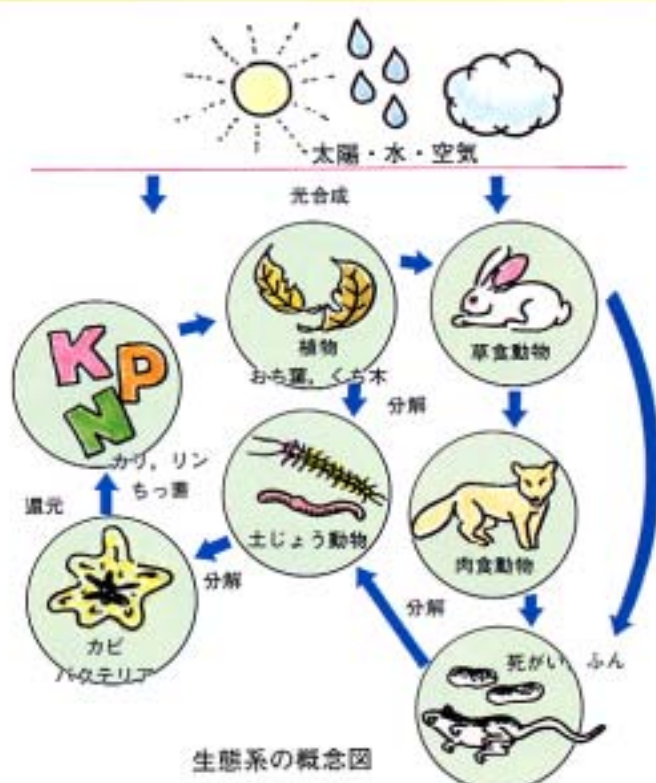
小田の池と人間のかかわり

小田の池のまわりには、多くの植物が見られ、また多くの動物が生息する豊かな自然環境が残されています。

これらの動植物は、互いに微妙なバランスを保ちながら密接に関係し合っています。この関係を生態系といいます。生態系は特別な事態が起こらないかぎり、安定した状態が続いていきます。

また、小田の池では、古くから人間が池の水を利用し、池のまわりでは狩りをしたり、野焼きをした草原に牛を放牧したりして小田の池の自然環境を利用してきました。

つまり、小田の池のまわりでは、人間の活動も生態系の一部として取り込まれながら、現在のような安定した一自然環境が豊かな一状態を保ってきたといえます。



小田の池と人とのかかわり方は、時代と共に変化してきました。特に最近の数十年間の間にかつてないほど大きく変わりました。小田の池のまわりの景色も随分変わってきています。

地元の部落の共有地として、春先に野焼きがなされ、牛が放牧されていた草原はスギやヒノキが植林されたり、草原から森林に移り変わろうとしています。

昔
(1960年頃)



写真提供 日野勝美 (湯布院町)

現在
(1994年)



池北側から蛇越岳を望む



池西側からアカマツ林を望む



草原の中のわだち



池の周りの道路

また、人間は、農業や生活のためだけに小田の池を利用するのではなく、自然とのふれあいを求めるために小田の池を利用するようにもなりました。

小田の池の北側の草原では、ピクニックをしたり、キャンプをしたりする人々の姿が増えてきましたし、最近では草原や湿原の中を車が走ることもあるようです。

草原を車が走った跡が、水の流れ道となり、土をえぐって深い筋が草原の中にできています。空き缶や弁当がらなどのゴミも目立つようになりました。

こうした行為が小田の池の生態系にどのような影響を及ぼすのでしょうか。はっきりとしているのは、このような行為によって、小田の池とそのまわりの自然環境がだんだん変わっていってしまうだろうということです。

近年、わたしたちの生活はたいへん豊かになってきましたが、その結果として、自然環境に回復不可能なほどの大きな影響を及ぼしてしまったケースが多く見られるようになりました。わたしたちがこれまでのように小田の池の自然環境を壊すことなく一保全しながら一利用していくためには、より一層の自然環境に対する配慮一やさしさ一が必要なのです。

